



▲私部城跡(本郭)

古文書から見た

# 戦国合戦

～私部城をめぐる攻防～

VOL.1

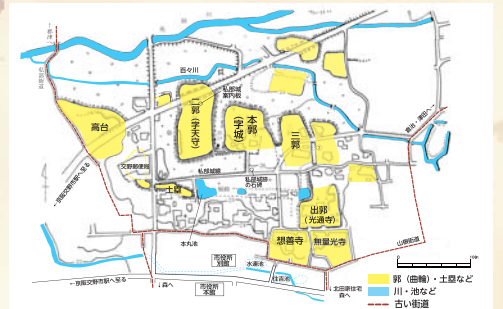


## 織田軍 VS 松永軍 私部城にて激突!

### 織田信長方の城「私部城」

戦国時代、私部には「私部城」がありました。現在、市役所北側・交野郵便局の東側に、その城跡が残っています。この城は平城として機能していましたが、平城跡がほとんど失われた府内において、その保存状態は奇跡的だといわれています。また、市にとって貴重な財産であると同時に、織田信長と松永久秀が激戦を繰り広げるなど、河内における戦国合戦の中心地となりました。

初回は、私部城が両者の決戦の場となったいきさつを紹介します。



中井均さん(考古学者)作製私部城跡縄張り図

### 織田軍対松永軍

織田信長は、本拠地のあつた美濃(岐阜県)を離れ、永祿11年(1568年)9月に上洛し、將軍・足利義昭の後盾を得て、天下統一に近づいていました。

元亀元年(1570年)4月、信長は上洛命令に従わない朝倉義景を討伐するため、越前(福井県)に侵攻しました。しかし、信長の妹であるお市と結婚し、同盟関係を結んでいた浅井長政は、朝倉の味方をして信長を裏切ったため、戦いは大きくなっていきます。

6月28日、信長は近江(滋賀県)の姉川で、浅井・朝倉連合軍を破りますが、今度は三好三人衆が、摂津国(大阪市)にあった野田・福島で挙兵し、「大坂本願寺」(現在の石山本願寺)住職の顕如も信長に対して挙兵します。さらに、顕如に呼応して伊勢(三重県)長島の一向一揆も起こります。これ以降、信長は各地の勢力が相次いで敵対する行動を起こした「信長包圍網」に苦しむこととなります。

私部城は、河内(大阪府)で織田方についた城として歴史上に登場しています。信長包圍網の中で、私部城は織田軍にとって、大事な拠点の一つでした。



松永久秀武者絵(月岡芳年画) 国立国会図書館 デジタルコレクションより

一方、松永久秀は信長が上洛するとすぐに帰参し、大和(奈良県)を支配することになります。その後は、信長と行動を共にしていましたが、元亀2年(1571年)に信長を裏切り、信長包圍網に加わることとなります。そして、松永軍が最初に攻め込んだ場所が私部城でした。久秀の拠点である大和から見ると、交野は街道を通じて河内国に入る玄関口で、京都への主要ルートの一つでした。久秀が信長に戦いを仕掛けるためにも、私部城は重要な場所となっていました。



昭和36年私部城跡周辺



私部村絵図

### 変わりゆく織田信長像

織田信長といえば、うつけ者・破天荒・冷酷非情なイメージがあるかと思いますが、近年の研究によって、そうした信長像も変わりつつあります。

例えば、ドラマなどではよく「上様」と呼ばれている信長ですが、古文書を見ると、上洛後は家臣から「信長」と呼び捨てにされているのです。今後の研究で、信長のイメージは大きく変わるかもしれません。

織田信長像模本 東京国立博物館ウェブサイトより▲



コラム

広報かたの 編集と発行

No.791

交野市役所企画財政部秘書広報課 〒576-8501 大阪府交野市私部1丁目1番1号 TEL072-892-0121 FAX072-891-5046

発行：2018年4月1日